

短期大学におけるブライダル分野での実践教育の取り組み

知念 葉子、一岡 里栄

An Approach to the Practical Education of Bridal Field in a College

Yoko CHINEN, Rie ICHIOKA

I はじめに

女性の社会進出の加速化とともに、ライフスタイルの個性化・多様化が進んでいる中で、結婚に対する意識の変化を背景にして、形式にとらわれず画一的ではないオリジナリティのあふれた結婚式への要望が高まっており、ブライダルビジネスの現場は急速に変化しつつある¹⁾。

これらの現状を踏まえて、本学短期大学部では、平成20年度からブライダル分野の科目を2科目新設してスタートし、その後毎年増設し現在、6科目を設置することで、ブライダル産業で活躍できる人材育成を目指した教育の実践や研究^{2)~4)}に取り組んでいるところである。

ブライダルビジネスの現場で即戦力として活躍できる実践力を育成するためには、婚礼ビジネスの業務内容全般について学習させ、また、高いコミュニケーション能力やホスピタリティマインド、さらには、トレンドによって変動しやすい顧客のニーズを的確に把握する力を身に付けさせ、顧客満足度の高い企画提案力を習得させることが不可欠だと考えている。そこで、専門教育機関として、これらのビジネス現場での実務において身に付けておくべき必須事項を、教育現場に還元し、実戦経験を付けさせる最適の場として提供できるのが、学生自らが全てのプロセスを手掛けて、1つの結婚式を企画した試作の結婚式、すなわち、「模擬結婚式」を実際に行ってみることでありと考える。そこで、開設から3年目の平成23年2月に本学短期大学部において、初めて学生企画による「和装模擬挙式」を開催した。本報文は、実践教育の場として企画可能な挙式スタイルについて提案し、これらの取り組みについて報告するものである。

II 実践教育の場として企画可能な挙式スタイル

結婚式のことをブライダル用語で「挙式」と表現することもあるが、「挙式」とは結婚式を挙げることで、即ち二人が夫婦になることを誓いそれを周囲に認めてもらうための「儀式」と定義される⁵⁾。

実際の婚礼をシミュレーション、且つイベントとして表現することを「模擬挙式」または「模擬結婚式」と位置付ける。「模擬挙式」または「模擬結婚式」は、ブライダル業界の実務の場においても、顧客獲得を目的とする販売促進の主要部分として、ほぼ全ての結婚式会場において頻繁に行われている。実際の婚礼と決定的に異なる部分が「参加する列席者の有無」という相違はあるが、婚礼当日の進行内容やプランニングに関しては現実の婚礼を想定した内容で構築できるため、教育現場での実践教育としては最たる成果を生むと考察出来る。尚、「模擬挙式」または「模擬結婚式」の表記については、明確な定義付けがなされていないのが実情ではあるが、後述する2011年2月に開催した本学主催の模擬のイベントについては、「結婚式」の意が大きく挙式と披露宴で構成されるという認識のもと、より挙式に焦点を当てた内容で構築したため「模擬挙式」と表すものとした。対して本報文では、今後の可能性を含め、更に広い視野で表題に関して考察するため「模擬結婚式」と表すものとする。

教育現場での実践教育として可能な挙式スタイルとしては、「キリスト教式」「神前式」「仏前式」「人前式」の4つのスタイルが考えられる。以下にそれぞれの特徴について述べる。

我が国においては、一般的に5つの挙式スタイルが存在すると認識されている。宗教性に則った挙式スタイルである「キリスト教式」「神前式」「仏前式」、そ

して宗教性のない「人前式」「自宅婚式」である。本来「儀式」は宗教との結び付きが強いことは顕著である、我が国で執り行われている「キリスト教式」「神前式」「仏前式」も宗教上の儀式として形式化されている。

しかし、諸外国には見られない、我が国特有の挙式に対する認識が古くから存在していることが、ひいては日本人の結婚観を考察する上でも非常に興味深く見て取れる。一般的には結婚における宗教性や信仰心は希薄であるため、どのような挙式スタイルを選択するかは、宗教上の事由によらず、「和装で厳粛に執り行うなら神前式、ウエディングドレスでバージンロードを歩きたいという希望ならキリスト教式」とイメージ重視で選択するケースが殆どである。また、宗教性のない挙式スタイルとして「人前式」「自宅婚式」が挙げられるが、「自宅婚式」は日本古来の挙式スタイルでありながら第2次世界大戦後著しく減少し、いまや稀に地方の旧家などで執り行われているという点と、宗教性がなく参列者が立会人、という定義は「人前式」

と相重なる部分もあるため、模擬結婚式として構築出来る挙式スタイルとしては、現在の我が国の挙式の大多数を占める「キリスト教式」「神前式」「仏前式」「人前式」4つのスタイルで構成できることとなる。そこで、模擬結婚式のスタイルとして挙げた4つの挙式の特徴を以下に記述する。さらに、それぞれの挙式スタイルで「模擬結婚式」を行った場合のプランニングの進行表をケース(1)～(4)として取り上げて示した。

(1)「キリスト教式」

神前式が日本人の一般的な挙式スタイルとして定番だった時代を経て、約30年前から一気にそのシェアを占有し、今や全体の約60%～70%を占める人気の挙式スタイルである。神前式からキリスト教式に移行した大きな2つの理由としては、「ウエディングドレス、またバージンロードへの憧れ」と「親族だけでなくゲスト全員に参加出来る挙式の希望」が挙げられる。式次第はキリスト教の宗教的観点に則ったものであるが、さらに細分化されたそれぞれの宗派によって異なる。我が国ではキリスト教の中でも圧倒的多数を占めるカトリック派とプロテスタント派の2つの宗派の挙式、特に戒律や教義の緩やかなプロテスタント派の式次第をベースに執り行われている。実際に独立型チャペル(チャペルはチャーチとは異なる/個人礼拝堂の意)やホテル、式場などで行われている挙式は、司式者(プロテスタントでは牧師)派遣会社から派遣された牧師が式を司る形式が一般的である。

表1に、「キリスト教式」の模擬結婚式としてプランニングしたケース1の進行表、図1にそのイメージ画像を示した。ケース1でプランニングした模擬結婚式のコンセプトは、キリスト教式の特徴を踏まえ、且つ本挙式スタイルを選択する新郎新婦のニーズを想定し、①顧客の希望が洋装(ドレス)の婚礼であるため

表1 模擬結婚式事例「キリスト教式」

模擬結婚式/キリスト教式 進行表 (ケース1)				
日時	年 月 日 ()	12:00~12:25	模擬挙式	
両家名 (モデル)	新郎モデル 新婦モデル (学生スタッフ・学生スタッフ)	会場:「OO」教会	模擬披露宴	
7:00	披露スタート ヘアメイク準備スタート	エンタランス、披露会場、受付設置 披露会場セッティング	司会 学生スタッフ1 学生スタッフ2	
8:30	新婦モデルヘアメイクスタート (洋装メイクヘアスタイリング)	メイク	学生スタッフ3	
10:00	新婦モデル着付スタート	カエデイングドレス、カロードレス	新花 学生スタッフ4 学生スタッフ5	
10:00	新婦モデル着付スタート	カエデイングドレス、カロードレス	新郎 学生スタッフ6 学生スタッフ7	
10:00	披露会場装花設置			
10:30	披露会場セットアップ	エンタランス、披露会場、受付設置完了	司会 新郎新婦の式次第	
10:30	モデル変更アップ	新郎新婦モデルは会場へ移動	司式者 プロテスタントの式次第	
11:00	披露ミニセレブレーション	スタッフ参集	司会 あゆみアライダル	
11:00	披露ミニセレブレーション	披露の部分のみ通してリハーサル	司会 あゆみアライダル	
11:30	新婦着付オープン	新婦着付オープンで参列者の披露あり	新花 フォーパス	
11:30	受付スタート	式次第、色当てクイズのカード渡し	クロス ベール、ベール	
	参列者参列者の参集、参集	模範定なし	モデル2名 (ウェディング・カロードレス) 新婦	
進行	時間	区分	名前	内容
模擬結婚式の主旨説明	12:00	2	司会者	模擬挙式の主旨、新郎新婦ターゲット紹介
新郎・新婦と入場			新郎	(衣装=タキシード) 牧師=新婦の順で入場
介添人入場			介添人合計8名	アッシュヤー・ブライズメイーズ・フラワーガール・リングベアラーの順で入場
新婦・新婦父入場			新婦・新婦父	(衣装=ウエディングドレス) バンジンロードを新婦父のエスコートで入場
新婦の引渡し			新郎新婦・新婦父	新婦父から新郎(新婦(花嫁))の引渡し
讃美歌合奏			「312番」全員で合奏	オルガニストの伴奏/式次第内に歌詞カードあり
聖書朗読・祈禱			牧師	牧師が新約聖書「コリント13章」の一節を朗読 一全員祈禱
式辞			牧師	新約聖書を引用した牧師の訓戒
誓約			牧師、新郎新婦	①牧師が新郎に問いかけ②牧師が新婦に問いかけ
誓約の交換			新郎新婦	①新郎から新婦へ②新婦から新郎へ 一ベールアップ 一誓いのキス
結婚証明書署名			牧師、新郎新婦、介添人	新郎新婦一介添人代表一牧師 の順に署名
新婦			牧師、新郎新婦	宣誓の上に新郎新婦と牧師の右手を重ね祈禱
結婚宣言			牧師	新郎新婦の結婚成立を宣言
讃美歌合奏			「430番」全員で合奏	オルガニストの伴奏/式次第内に歌詞カードあり
牧師による祝福			牧師	参列者全員に向けて祈禱/参列者数禱
新郎新婦退場			新郎新婦	一アッシュヤー/ブライズメイーズ/フラワーガール/リングベアラーが男女ペアになり退場
参列者の退場	12:25			教会前中庭に移動→フラワーシャワーの準備
フラワーシャワー準備	12:30	5	新郎新婦、全員	教会前中庭にて祝福のシャワー
(ゲスト会場入り)	12:35	5	参列者	披露会場へ参集
新郎新婦の入場	12:40		新郎新婦	(衣装=タキシード・ウエディングドレス) 会場前入り口から入場
ケーキカット	12:42	3	新郎新婦	ケーキ入刀→ファーストバイト(食べさせ合い)
サブライズケーキカット	12:45	3	両家両親4名	両親がケーキカット→ファーストバイトあり/両親モデルは教員4名
キャンドルサービス中座	12:48	5	新郎新婦	キャンドルサービスでももに披露→そのまま退席(モデルは別室にチェック)
お色直し	12:53		新郎新婦	(衣装=タキシード・カロードレス) 会場後方入り口から入場
パルナスパーク		5	新郎新婦	専らに披露しながらパルナスを眺め一歩からお色直しパルナスにプレゼント
新婦手紙朗読	12:58	2	新婦	両親モデルは教員4名
花束贈呈	13:00	3	新郎新婦+両親4名	床席にて新郎新婦より花束贈呈
お披露宴一退場	13:03	2	新郎新婦+両親4名	新郎新婦、両親合計4名退場
スタッフ紹介	13:05	5	学生スタッフ全員	スタッフ全員ひとりずつメインテーブルに登場 一ひとずつ挨拶
スタッフ代表挨拶	13:10	2	学生スタッフ1	挨拶後学生スタッフ退場
メイキングDVD上映	13:12	3	学生スタッフ全員	模擬結婚式の準備段階の映像を流す
模擬結婚式終了	13:15			参列者は随時退席



図1 キリスト教式のイメージ画像 (O.T. 社提供)

カラードレスにお色直しをする進行内容、②ゲスト参加型のイベントが中心、③アットホームで堅苦しくなく新郎新婦や両家両親を含め全員で結婚式を楽しむ、というイメージで構成している。

①前述した通り、顧客の60～70%が選択する挙式スタイルであるため、一般的な新郎新婦のニーズを考察する必要がある。それらは、ウエディング・アイテムの中でも中心部分を成す衣裳に関してはウエディングドレスでの挙式、また2点目の衣裳はより個性の出やすいカラードレスを選択するであろうと考えられる。

②現在の新郎新婦のニーズは、身近で親しい人達のみを招いての結婚式、ゲストに楽しんでもらうためのおもてなしやサプライズに魅力を感じている。よって、進行表に記述の通り「フラワーシャワー」や「ブーケトス」、「バルーンスパーク」などの演出で構成されている。

③同じく近年の結婚式に於いては、両家両親の位置付けも以前と比べ変わりつつある。新郎新婦と同様「主催者」の意が少しずつ薄れ、ゲストと同様、両親にも楽しんでもらいたいという要望が強くなってきている。よって、自分たちがケーキカットを行った後、「サ

プライズで両親のケーキカット」などを要望する傾向がある。この様に本挙式を踏まえた模擬結婚式の進行は、最近のブライダル事情を色濃く反映したプロデュース内容となっている。

(2)「神前式」

神前式を我が国の伝統的な挙式スタイルと認識されることが多いが、実際は日本人の挙式スタイルとしての歴史はそう長くない。明治33年、大正天皇のご成婚が東京大神宮に於いて執り行われたことがきっかけで一般的に認識されたと言われている。神前式も神道の概念に則って形式化された式次第を有し、本来は神社で執り行われるものでありながら、ホテルや式場の仮神殿に於いて挙式を行い、引続き同会場で披露宴を開催するスタイルが定着していると言えよう。しかし、近年ブライダル市場において「和婚ブーム」が到来したことにより、最近では神社での神前式を選択するカップルは増加傾向にある。特に全国的にも名の通る神社が混在する京都は、今や近郊に在住するカップルだけでなく、他府県からも神社挙式のニーズが集中している現状がある。

表2に、「神前式」の模擬結婚式としてプランニン

表2 模擬結婚式事例「神前式」

模擬結婚式/神前式 進行表 (ケース2)			
日時	年 月 日 ()	12:00~12:25	模擬挙式
両家名	新郎モデル	12:40~13:00	模擬披露宴
(モデル)	新婦モデル (学生スタッフ8)	会場: 料亭「〇〇」	
7:00	披露スタート	エントランス、披露宴会場、受付設置	司会 学生スタッフ1
	ヘアメイク準備スタート	式場部屋のセッティング	音響 学生スタッフ2
8:00	新婦モデルヘアメイクスタート	(和装メイクヘアスタイリング)	メイク 学生スタッフ3
9:00	新婦モデル着付スタート	紋付	装花 学生スタッフ4 学生スタッフ5
9:30	新婦モデル着付スタート	色打掛/かつら	フラワー 学生スタッフ6 学生スタッフ7
10:00	装花搬入	披露宴会場の装花設置	
10:30	会場セットアップ	エントランス、披露宴会場、受付設置完了	プロデュース 兼オフィスタイズ
10:30	モデル度アップ	新郎新婦モデルは会場へ移動	神前式の式次第
	全体ミーティング	スタッフ全員	衣装 あゆみブライダル
11:00	模擬挙式・裏ハーサル	披露宴の部分のみ通してリハーサル	装花 フィーブス
11:30	挙式場オープン	挙式場入口で参列者の誘導あり	クロス べる・べる
11:30	受付スタート	参列者の記憶あり	モザイク
	挙式参列者の入場・着席	座指定なし	新婦
進行	時間	名 前	内 容
参観(入場)	12:00	新郎新婦	(衣装=紋付・色打掛/かつら)
修飾の儀		斎主・全員	新郎新婦・参列者に向けてのお経い /一同起立
斎主一拝		斎主・全員	神前の始まりの拝礼 /一同起立
願書の儀		斎主	神前に供えているお神酒の入った瓶子の蓋を取る「挙式開始の合図」
祝詞奏上		斎主	斎主が祝詞を読み上げる /一同起立
三献の儀 (三々九度)		斎主・巫女・新郎新婦	新郎新婦が大小の小の杯でお神酒を交わす
指輪交換		新郎新婦	①新郎から新婦へ②新婦から新郎へ
誓詞奏上		新婦	あらかじめ用意された誓詞を新郎が読み上げる→新婦は最後に名前のみ口上
玉串拝礼		新郎新婦	神前に玉串を奉り二礼二拍手一礼で拝礼する
親族杯の儀		新郎新婦	新郎新婦が一同に杯のお神酒を飲み干す (通常は親族全員で行う)
願書の儀		斎主	神前に供えているお神酒の入った瓶子の蓋を閉める「挙式終了の合図」
斎主一拝		斎主・全員	斎主に合わせて神前に向かい一礼 /一同起立
退場	12:25		新郎新婦退場→ゲストはそのまま引き続き披露宴
メイキングDVD上映		6	模擬挙式準備段階の映像
模擬結婚式の主旨説明	12:31	4	司会者より 模擬挙式の主旨・新郎新婦ターゲット紹介
新郎新婦の入場	12:35	2	新郎新婦 (衣装=紋付・色打掛/洋装) 会場後方入口から入場
お経読みカット	12:37	3	子持ら音響機材(経巻もの)にテープを入れる
ミニ饅頭	12:40	5	各卓にセットしたミニ饅頭を木箱で開き 一各卓にご挨拶
新婦手紙朗読	12:45	3	新婦 両親モデルは抜身名
花束贈呈	12:48	2	新郎新婦+両親4名 床前にて新郎新婦より花束贈呈
お披露宴一退場	12:50	2	新郎新婦+両親4名 新郎新婦、両親合計6退場
スタッフ紹介	12:52	5	スタッフ全員ひとりずつメインテーブルに登場 一ひと高ずつご挨拶
スタッフ代表挨拶	12:57	3	学生スタッフ1 挨拶後学生スタッフ退場
模擬結婚式終了	13:00		参列者は随時退席



図2 神前式のイメージ画像 (O.T. 社提供)

グしたケース2の進行表、図2にそのイメージ画像を示した。ケース2の模擬結婚式のコンセプトについては、ケース1と同様神前式を選択する新郎新婦のニーズに基づき、①厳粛な和装の婚礼であること、近年の和婚ブームに則り、②重厚感のある婚礼でありながらトレンド性も合わせ持つ演出、まさにネオクラシックスタイルの結婚式、というイメージで構成している。①②ともキリスト教式を選択する新郎新婦のニーズと同様に、ごく一般的な最近の新郎新婦像が浮かび上がりオーソドックスな結婚式の意が強い。古くから神仏混合、即ち「慶事は神様、弔事仏様」という考えが一般的である日本人の生活様式に最も溶け込んだスタイルと言える。ただ、「和」のテイストをプラスαすることにより、キリスト教よりも厳粛且つ神聖な要素が付加される。衣裳は華やかな色打掛、挙式は神前式の式次第に則り厳かな定番の流れであるが、披露宴では若干カジュアルな和の演出を取り入れ、ケーキの代わりに大きな子持ち著黄饅頭にナイフを入れる「お饅頭カット」や各卓挨拶の演出として「ミニ鏡開き」などで本挙式を選択するカップルのニーズを反映している。

表3 模擬結婚式事例「仏前式」

模擬結婚式/仏前式 進行表 (ケース3)				
日時	年 月 日 ()	12:00~12:25	模擬挙式	
両家名	新郎モデル	12:45~13:10	模擬披露宴	
(モデル)	新婦モデル (学生スタッフ8)	会場:「OO」寺院		
7:00	披露スタート	エントランス、披露会場、受付設置	司会 学生スタッフ1	
	ヘアメイク準備スタート	支度部屋のセッティング	音響 学生スタッフ2	
8:00	新婦モデルヘアメイクスタート	(和装メイクヘアスタイリング)	メイク 学生スタッフ3	
9:00	新郎モデル着付スタート	紋付	装花 学生スタッフ4	
9:30	新婦モデル着付スタート	白無垢/縁結び	フラワー 学生スタッフ6	
10:00	装花搬入	披露会場の装花設置		
10:30	会場セットアップ	エントランス、披露会場、受付設置完了	プロフェス 新オフィスタイズ	
10:30	モデル支度アップ	新郎新婦モデルは会場へ移動	司式者 神前式の式次第	
	全体ミーティング	スタッフ全員	衣装 あゆみブライダル	
11:00	模擬挙式・重りハサリ	披露宴の部分のみ進んでリハーサル	装花 フィーバス	
11:30	挙式場オープン	挙式場入口で参列者の誘導あり	クロス ベル・ペー	
11:30	受付スタート	参列者の記憶あり	モデル 新婦	
	挙式参列者の入場・着席	席指定なし		
進行	時間	分間	名前	内容
新郎新婦入堂	12:00		新郎新婦	(衣装=紋付・白無垢「洋装/縁結び」)
司会者入堂			全員	司会者入堂一禮書一本腰に向かつて合掌 /一同合掌
誓白文朗読			司会者	新郎に「新郎新婦が夫婦となること」を報告する誓白文を読み上げる
念珠授与			司会者・新郎新婦	司会者仏前に供えてある念珠を取り白い環は新郎へ、赤い環は新婦へ授ける
指輪交換			新郎新婦	①新郎から新婦へ②新婦から新郎へ
誓約の辞			司会者	①司会者が新郎に問いかけ②司会者が新婦に問いかけ
新郎新婦挨拶			新郎新婦	司会者の挨拶のあと新郎新婦が互手に念珠を持ち挨拶
式杯			司会者・新郎新婦	新郎新婦が大小の杯で酒を交わす(杯の順序は神前式と逆)
司会者法説			司会者	仏教上の結婚の意味を説き新郎新婦に祝福を述べる
合掌			全員	本腰に向かつて合掌 /一同合掌
礼拝			全員	本腰に向かつて礼拝 /一同礼拝 一挙式終了
退席	12:30	4		新郎新婦退席 一参列者の退席
折鶴シャワー	12:34	3	新郎新婦・全員	退席前に折鶴の折鶴シャワー
ゲスト会場入り	12:37	5	参列者	披露宴会場に到着
模擬結婚式の主旨説明	12:42	3	司会者より	模擬挙式の主旨・新郎新婦ターゲット紹介
新郎新婦の入場	12:45	2	新郎新婦	(衣装=紋付・白無垢) 新婦は縁結びを外し洋装にチェンジ
鏡開き	12:47	3	新郎新婦	本腰で樽酒の蓋を開く
ブチキトサービス	12:50	7	新郎新婦	カゴに入れたこんべいというガストにプレゼント 一各卓にご挨拶
新婦手紙朗読	12:57	2	新婦	両家モデルは教員4名
花束贈呈	12:59	2	新郎新婦+両親4名	花束にて新郎新婦より花束贈呈
お披露宴一退席	13:01	2	新郎新婦+両親4名	新郎新婦、両親合計6名退席
スタッフ紹介	13:03	5	学生スタッフ全員	スタッフ全員ひとりずつメインテーブルに登場 ひととぎすつご挨拶
スタッフ代表挨拶	13:08	2	学生スタッフ1	挨拶後学生スタッフ退席
模擬結婚式終了	13:10			参列者は随時退席

(3) 仏前式

仏教徒の多い我が国で執り行われる挙式のひとつであるが、一般的に信仰心によりこの挙式スタイルを選択するカップルは極めて少ないとされている。式次第は宗派により異なり、本来は菩提寺の本堂で行われるが、披露宴会場に隣接するスペースや一部のホテル、式場に僧侶を招いて執り行うケースもある。仏前式の内容は、「仏の慈悲により二人の結婚は前世から因縁づけられており、その因縁を先祖に報告し、仏に感謝すると共に来世までの結びつきを誓うもの」とされている。極少数派の挙式スタイルとされているが、日本人の結婚観の源である「家と家との結びつき」という考え方に、最も近い挙式スタイルと言えるのではないかと考えられる。表3にケース3として、仏前式での進行表と、図3にそのイメージ画像を示した。ケース3の模擬結婚式については、ケース2と同様、和をモチーフとした結婚式ではあるが、神前式と仏前式の挙式スタイルのシェアを比較すると神前式は全体の約20%、仏前式は約1%前後と仏前式は希少である。よって神前式を取り入れた結婚式との差別化を図り、①よりフォーマルでありながらオーソドックスなイメージと対比させた個性的な演出、また②両家(新郎家と新婦家)の結びつきをクローズアップするというコンセプトでプランニングしている。

①フォーマルな演出に関しては和の婚礼の定番であり演出としては最も重厚感溢れる「鏡開き」で披露宴をスタートさせる点、個性的な演出としては、洋風の結婚式では挙式後の祝福として一般的であるフラワーシャワーをオリジナル演出に変えた「折鶴シャワー」で表現している。

②両家の結びつきをクローズアップするというコンセプトは、まさに仏前式の内容そのものであるため、挙式部分で色濃く反映されていると言える。ケース3



図3 仏前式のイメージ画像 (O.T. 社提供)

の進行表上では表現されていないが、仏前式を選択するカップルの披露宴で考えられる、その他のプランニングとしては、例えば両親や兄弟に焦点の当たる演出であったり、ゲストが持ち帰る引出物の内容を新郎新婦それぞれの出身地にちなんだ名産を取り入れるなどで、家と家の婚儀という意味合いを表現することも可能である。

(4) 人前式

宗教性を持たず、参列者全員の前で夫婦の誓いを立て、参列者が証人となる挙式スタイルである。「人前式」は、模擬結婚式の4つのスタイル内に取り込まなかった「自宅婚式」と相通じるものがある。(「自宅婚式」に於いても宗教性はなく、新郎家の自宅に両家が集い両家の親族が見守る中、儀式の中心となる三三九度の杯で夫婦の契りを交わす。)

「人前式」には宗教性がないため、自ずと形式に捉われず式次第も自由に作成することが出来る。よって、近年のオリジナルウエディングのニーズに伴い、増加傾向にある挙式スタイルと認識されている。表4にケース4として人前式での進行表、図4にそのイメージ画像を示した。ケース4の模擬結婚式は、人前式の

表4 模擬結婚式事例「人前式」

模擬結婚式/人前式 進行表 (ケース4)				
日時	年 月 日 ()	12:00~12:20	模擬挙式	
両家名	新郎モデル	12:20~12:55	模擬披露宴	
(モデル)	新郎モデル(学生スタッフ8・学生スタッフ9)	会場:「〇〇」		
7:00	授意スタート	エントランス、披露宴会場、受付設置	司会 学生スタッフ1	
	ヘアメイク準備スタート	支度部屋のセッティング	音響 学生スタッフ2	
8:30	新郎モデルヘアメイクスタート	(洋服メイク ヘアスタイリング)	メイク 学生スタッフ3	
10:00	新郎モデル着付スタート	タキシード	装花 学生スタッフ4	
10:00	新郎モデル着付スタート	ウエディングドレス・カラードレス	ブランナー 学生スタッフ6	
10:00	装花撤入	披露宴会場の装花設置		
10:30	会場セットアップ	エントランス、披露宴会場、受付設置完了		
10:30	モデル着度アップ	新郎新郎モデルは会場へ移動	ゾフォース 新郎フィスタイズ	
	全体ミーティング	スタッフ全員	衣装 あゆみプライダグ	
10:45	模擬挙式・誓いハーサル	挙式披露宴主要部分を通してハーサル	装花 フィーバス	
11:30	挙式場オープン	挙式場入口で参列者の誘導あり	クロス ベル・ベル	
11:30	受付スタート	立会人シートに参列者の記載あり	モデル	
	参列者参列者の入場・着席	座指定なし	新郎 新婦	
進行	時間	分	名前	内容
メイキングDVD上映	12:00	5	学生スタッフ全員	模擬結婚式の準備段階の映像を流す
新郎新婦入場	12:05	2	新郎新婦	(衣装→タキシード・ウエディングドレス)
新郎新婦の紹介	12:07	2	司会者	新郎新婦の人となりを紹介
誓いの詞	12:09	1	新郎新婦	声を合わせてオリジナル文面の誓詞を読み上げる
指輪の交換・披露	12:10	2	新郎新婦	①新郎から新婦へ②新婦から新郎へ 指輪の披露
ベールアップ/誓いのキス	12:12	2		新郎が新婦のフェイスベールを上げ一誓いのキス
結婚証明書署名	12:14	2	新郎新婦	①新郎署名②新婦署名
立会人代表署名	12:16	2		両家の代表者として新郎新婦の立会人が署名
承認宣言	12:18	2	司会者	司会者がゲストに結婚の承認を問いかける一拍手で承認
挙式終了	12:20			新郎新婦の退場なし 一引続き披露宴
披露宴開宴の辞		3	司会者より	開宴の辞一模擬挙式の主旨・新郎新婦ターゲット紹介
ケーキカット	12:23	3	新郎新婦	ケーキ一刀ファーストバイト(食べさせ合い)
乾杯	12:26	2	新郎新婦	新郎新婦が乾杯を交えしほりながら乾杯風の乾杯
プチギフトサービス中継	12:28	5		プチギフトを渡しながら各席に挨拶一そのまま退席(モデルから席にチェンジ)
お色直し入場	12:32		新郎新婦	(衣装→タキシード・カラードレス)会場後方参列者入口から入場
フェアリー・ユー・ジョン		5		各席に挨拶をししながら各席のグラスに発光色液体を入れる(光の演出)
ブーケブルズ	12:37	3		未婚の女性約10名がブーケに絡ばれたりポンを引く一1名にブーケプレゼント
新婦手紙朗読	12:40	2	新婦	両家モデルは参列者4名
記念品贈呈	12:42	3	新郎新婦+両親4名	両家にて新郎新婦より記念品(写真立て)贈呈
お披露宴 一退場	12:45	2	新郎新婦+両親4名	新郎新婦、両親合計6名退場
スタッフ紹介	12:47	5	学生スタッフ全員	スタッフ全員ひとりずつメインテーブルに登壇 一ひとずつ挨拶
スタッフ代表挨拶	12:53	2	学生スタッフ1	挨拶後学生スタッフ退場
模擬結婚式終了	12:55			

挙式スタイルが持つ特性を最大限に表現した「参列者全員が二人の結婚の立会人であり証人である」というコンセプトに基づき構成している。また、結婚式全体のイメージとしては、①フォーマル性よりややカジュアル性の高い雰囲気でもとめ、例えば衣裳もウエディングドレスとカラードレス洋装2点でプランニングしている。更に近年増加傾向にある挙式スタイルであることから②トレンド性を重視しオリジナリティ溢れる内容で構築している。

①宗教性のある挙式の場合はやはり儀式的な要素が多いため、自ずと厳粛な雰囲気の中挙式自体がフォーマルな印象となる。キリスト教式、神前式、仏前式とも新郎新婦の位置は上座に存在する神仏に向かっての挙式であるため、参列者は新郎新婦と向かい合うことはない。しかし人前式の場合は披露宴時と同様参列者に面と向かって行われる挙式であるため、新郎新婦に対し、祝福の拍手や声援が飛び交うこともあり、他どの挙式スタイルより全員参加型のアットホームな挙式であることは間違いない。よって、挙式の式次第に於いても「新郎新婦の紹介」や参列者に二人の結婚の承認を問い掛け認知してもらう「承認宣言」などを組み込んでいる。ゲストが参加型の挙式という点では、挙式の進行や、リングピローを運んだり、新婦の介添などゲストも挙式そのものに参加するケースも考えられる。



図4 人前式のイメージ画像 (O.T. 社提供)

②トレンド性を重視し、オリジナリティを求める新郎新婦のニーズを満たすためには、①の通り挙式自体を自由に構成することが出来る点がポイントとなると言えるだろう。披露宴内の演出としては模擬結婚式という限られた時間のイベントではあるが、カラードレスの新婦を見せることが必須と考えられる。前述したが、ウエディング・アイテムの中で最もインパクトのある衣裳の訴求力は絶大であるため、非常に効果的な演出と言える。更に人気の高い光の演出「フェアリーリレーション」やゲストの中でも若い女性をターゲットにした「ブーケブルズ」などが人前式を取り入れた模擬結婚式のイメージを構成している。

人前式をプランニングするにあたり、全体を構築する上でまず取り組む点としては、和装、洋装、どちらの衣裳とするかに尽きる。自由度が高く形が決まっていないとは言え、和装での挙式の場合は、会場設営・式次第とも限りなく神前式に近いイメージで作り上げることが通念である。また、洋装での挙式の場合はキリスト教式を踏まえた挙式構成となる。なお、一般的な人前式は後者、即ちウエディングドレスでバージンロードを歩くイメージの挙式が大半を占めているという点を追記する。

そこで、「模擬結婚式」のスタイルとしては上記4つのスタイルが考えられるが、本学ブライダル分野の実践教育の場として、ふさわしいと考えられるのは、近年のオリジナルウエディングのニーズに伴って、増加傾向にある挙式スタイルであり、また、宗教性がなく形式に捉われず、式次第も自由に作成することができる「人前式」であると考えた。そしてそれを挙行する場として、京都らしさを満喫でき、京都の伝統建築である京町家の雰囲気を取り込んだ「くろちく百千足館」(図5、図6)を挙式会場と決定し、2011年2月に、和装による「模擬結婚式」を行った。表5にその進行表を示す。

Ⅲ 当日までの取り組み

Ⅱでの考えを踏まえて、平成23年2月の初めての取り組みとして行った、ここ数年ブライダル市場で人気の和装による「模擬結婚式」について以下に報告する。

「和装模擬結婚式」の取り組みの流れは、次の通り

である。まず起案は、本学、平成22年度後期授業「ブライダルプロデュース」内での学生に向けての告知及び提案からで同年11月初旬からのスタートとなった。模擬結婚式の実施に至る背景として、まず同授業ブライダルプロデュースの授業概要を記述すると、「人生最高のイベントである結婚式において、心に残るシーンを創り出す披露宴のスタイルを様々な角度から学ぶ。ブライダル業務に携わるために必要な知識(特にブライダルを構成する各分野の商品知識)を学んだうえで、マーケティングから企画立案、プレゼンテーションまで、イベントプロデュース全体について習得する」となっている。具体的には、1組の婚礼のひとつひとつのディテールとなる商品アイテムの基礎知識を熟知し、それらを纏め上げる「プロデュース能力」を習得するために、1グループ4名～6名でグループを構成し、グループ毎に1組の婚礼のプランを完成させ、約20分のプレゼンテーションを行うことを到達目標と設定した。作成物は大きく2項目あり、ひとつは実際の新郎新婦と打合せ業務を重ね、内容を具現化していくうえで現場のプランナーが使用するフォーム一式、「新郎新婦のアンケートシート、婚礼オーダーシート、進行表、席次表、アイテム発注書、見積書」である。これらのフォームの完成、イコール、1組の婚礼が細部までプランニングされた状態、という形式を取ることにより、学生自身が内容把握と進捗状況を実感出来る仕組みで構成されていた。2項目は、プレゼンテーションの観点から、プランニングした婚礼をヴィジュアルで表現するものとして「プレゼンテーションボード」である。これも商品アイテムのディテールを最終的に1件の婚礼として見せる能力の重要性を勘案すると不可欠な作成物であった。前述のような到達目標を掲げ、同年10月初旬、ブライダルプロデュースの授業がスタートし、講義から実践授業に移る過程の11月初旬に、授業の集大成として、プランに留まらず施行まで実体験すべく模擬結婚式を起案し、本案に共感、共鳴し意欲を持った学生8名でチームを構成し、模擬結婚式構築がスタートすることとなった。

チーム構成から模擬結婚式施行日までのフローは、大きく分けて以下の5段階となる。学生を指導するうえで一貫してポイントとした点は、「作り上げる婚礼は、実際の婚礼と同レベルのクオリティであることを目指す」ことである。よって、常に各自がプランナー

(婚礼接客業務に携わるスタッフ)としての行動を意識することと、学生が顧客ニーズを十分踏まえたプランニング構築の重要性を体感する必要がある、その動機づけがひとつの大きなテーマとなった。

模擬結婚式実施日に関しては、実際の新郎新婦が婚礼日の約3ヶ月前から具体的な準備をスタートさせる通例に則って、3ヵ月後の2月初旬から中旬で設定した。これも、単なる学生の発表会で終わることなく現実の結婚式を実体験するうえで功を即した結果となったと言える。

①第1段階「ターゲット設定」

学生個々の役割分担の前に、全員フラットな状態でプロデュースする婚礼の新郎新婦像構築(ターゲット設定)に工数をかけた。氏名、年齢、職業、家族構成など、一般的なアンケート用紙の項目だけでなく、そこから一層、二層と深く掘り下げた設定をした。婚礼ビジネスに於いて、顧客(新郎新婦)の情報収集は他業種以上に必要不可欠である。婚礼は、人をオフィシャルとプライベートに分類するならば、プライベートの範疇で最たるイベントであり、日常生活の中では取ってオープンとならない顧客の様々な情報を入手する必要がある。この初期段階を充実したものにするか否かで、最終的なプランニング内容のクオリティが決定すると言っても過言ではない。「顧客を知り得ず、その先のプロデュースやプランニングは存在しない」点を学生は十分理解し、細部に渡ってターゲット設定を行った。一例では、ターゲットの生活スタイルや趣味から派生し、「友人とよく行くカフェの店名」、「通常身につけている洋服や持ち物のブランドと、本来購入したいと考えているブランドの相違」などが挙げられる。また、新郎新婦の情報としては、「北海道出身の新郎と福岡出身の新婦、と京都以外の他府県出身の男女が学生時代の4年間京都で過ごしその中で出会い、その後遠距離恋愛を経て結婚に至る」など、異なる環境で生まれ育った男女が出会い、どのような時間を共有して結婚を決めたかを、ストーリー形式で完成させた。

②第2段階「コンセプト、イメージ・カラーの決定」

第2段階に於いても、役割分担前に、全員で取り組む作業とした。第1段階で明確となった新郎新婦(ターゲット)に対し、どのような婚礼を提案することが望ましいか、また顧客満足が得られるかにフォーカスしたミーティングが繰り返された。まず、各自が考案し

たアイデアを持ち寄る形式だったため、当初は様々な案、真っ向からの反対意見も出されたが、話し合いが滞る度にターゲット設定の思い返しに戻り、以下のコンセプトが決定された。「二人が出逢った京都での結婚式」、「開催地となる京都の趣と情緒を持つ和風のゲストハウス」、「自然体でナチュラルなものを好む新郎新婦の趣向を取り入れた婚礼」、「出身地の異なる両家の結びつき」、「京都以外のエリアから駆けつけてくれるゲストへのおもてなしと感謝の気持ち」、これらが模擬結婚式のコンセプトとして掲げられた。

婚礼全体のコンセプト決定の後、それらを更に具体化すべくイメージとカラーの決定へと続いた。コンセプト(概念)だけでは、多岐に渡る商品アイテムのひとつひとつを、統一感を持って纏め上げるには困難が生じ相互に違和感のある要素の集合体となる恐れがある。よって、コンセプトを具体的に落とし込むという意で、イメージ(エレガント、カジュアルなどの形容詞)とカラー(メインカラーとサブカラー)を明確に決定することの重要性や今後役割分担をしてプランニングを進めていくうえで学生全員が共通の感覚を持ち商品アイテムを構築することがポイントとなるということを理解する必要がある。学生はそれぞれ、自身が思う「可愛い」と他のメンバーが思う「可愛い」のギャップに気づき、雑誌や写真をもとに統一した「可愛い」をヴィジュアルで明確に作成し、全学生が共通認識を得た。そして最終的には全員納得した形で、イメージは「ナチュラル」、「上品」、「和テイスト」、テーマカラー「ゴールドイエロー」、サブカラー「グリーン」の決定となった。

第1段階、2段階に於いては、個々の役割を定めず、1組の婚礼の新郎新婦像、またその顧客に最も適合する婚礼の全体像を全員で模索する過程とした。それぞれの役割分担前にこの過程を経たことによって、学生全員が同一の環境で模擬結婚式の全体像を構築出来たことが、成果に結びついたひとつの要因と考えられる。仮に、真っ先に役割分担をしたうえでこの過程を踏むと、多少なりとも個々の状況や可能・不可能を視野に入れたプランニングになってしまう可能性が想定された。また、学生間の温度差や認識ギャップを避けるうえでも、プラス要因であったと言える。或いは、全く別の観点から、共同作業を積み重ねていく中で、学生各自の得て不得手や、自身がどの項目でモチベーショ

ンを上げていけるのが明確となり、自ずとその後の役割分担がなされた経緯も見取れ、チームで構築することの醍醐味も感じられたように思う。

第1、第2段階で約1ヶ月を要する結果となった。

③第3段階「役割分担とスケジュールリング」

第1、第2段階を経て、いよいよ各自のポジション、役割分担へと進む。前述の通り、比較的スムーズに（まるで以前から決定していたかのよう）に即決となった。役割に関しては、「ヘアメイク、会場装飾」は事前準備にウエイトの高い業務、「モデル、プランナー」は模擬結婚式本番内でウエイトの高い業務、「司会、音響（BGM）」は双方でポイントとなる業務、と大きく3種類に分類した。また、各ポジションの詳細確定の期日を1カ月後（模擬結婚式の1ヶ月前）に設定し、1ヶ月後にそれぞれが具現化したアイテムを持ち寄り全体像をチェックするというスケジュールの確定を共有した。

実際の作業に入る前に、役割分担されたアイテムについての考察期間を設け、ターゲットと向き合い、コンセプト並びにイメージとテーマカラーに沿っての商品企画がスタートした。さらに、担当者が提案したアイテムについて、他のポジションの学生に簡単なプレゼンテーションを行い、意見や感想を踏まえて再度練

り上げ、全員が承認した内容で各アイテムの概要を決定する、という経緯を辿った。

④第4段階「各ポジションのプランニング」

事前準備にウエイトを置くヘアメイク・会場装飾担当者は、貸衣装店のスタイリストや装花フローリストなど、実際の婚礼に携わる商品アイテムのプロ達と共に打合せを進め内容を決定した。このことが、貴重な経験となり得ただけでなく、自身のポジションに対する責任感やモチベーションを上げるうえでも大きな役割を成した。プロ達を相手に自分の意向を伝えるためには、基礎知識の習得が不可欠であるだけでなく、「どうしても実現したい」というパッション（情熱）を相手に伝えることの重要性も経験したと言えるのではないか。

（ヘアメイク担当；学生スタッフ3、会場装飾担当；学生スタッフ4・5、図6に当日の会場装飾の画像を示した。）

模擬結婚式本番内にウエイト置くモデル、プランナーは、事前準備を担う学生（ヘアメイク・会場装飾）のフォローに入ると同時に、当日に向けての準備作業

表5 和装模擬挙式 進行表

和装模擬挙式（人前式） 進行表

日時	2011年 2月 9日 (水)		17:00~17:50	
両家名	新郎モデル (男性スタッフ1)		模擬挙式→披露宴	
(モデル)	新婦モデル (学生スタッフ8)		会場：くろちく百千足館舞台	
11:00	披露スタート	エントランス、披露会場、受付設置	司会	学生スタッフ1
	ヘアメイク準備スタート	支度部屋のセッティング	音響	学生スタッフ2
13:00	新婦モデルヘアメイクスタート	(和装メイク →ヘアスタイリング)	メイク	学生スタッフ3
14:00	新郎モデル着付スタート	着付着付	装花	学生スタッフ4
14:30	新婦モデル着付スタート	引継着付	プランナー	学生スタッフ5
14:30	新婦モデル着付スタート	引継着付	学生スタッフ6	学生スタッフ7
15:00	装花搬入	披露会場の装花設置		
15:30	会場セットアップ	エントランス、披露会場、受付設置完了		
15:30	モデル着付アップ	新郎新婦モデルは会場へ移動	プロデュース	和装スタイリスト
15:30	会場ミーティング	スタッフ全員	衣装	おゆみブライダル
15:40	模擬挙式・宴リハーサル	通しで会場内のリハーサル	装花	フラワーバス
16:30	会場オープン	会場入口でスタッフ名簿埋めあり	クロス	ペル・ペー
16:30	受付スタート	立会人シート・くじ、受付準備品用意		
進行	時間	分間	名前	内容
和風人前式の主旨・説明	17:00	2	司会者	模擬挙式の本旨、新郎新婦ターゲット紹介
新郎新婦入場	17:02	2	新郎新婦	(衣装=着付・引継着) 脱着から入場
開式の辞	17:04	1	司会者	開式の辞
誓詞朗読	17:05	2	新郎新婦	新郎新婦がオリジナル文を読み上げる
扇子の交換	17:07	2	新郎新婦	①新郎から新婦へ②新婦から新郎へ 同時に交換
指輪の交換・披露	17:09	2	新郎新婦	①新郎から新婦へ②新婦から新郎へ 一括披露
夫婦固めの絆	17:11	2	新郎新婦	①大柄は新郎→新婦②小柄は新郎→新婦
結婚証明書に署名	17:13	2	新郎新婦	①新郎署名②新婦署名 一括証明書披露
ブーケセレモニー	17:15	5	新郎新婦・参列者	①新郎が参列者から花を集める(各道1本×8本) ②花をブーケにし新郎がブローズ&花を新婦へ ③新婦からひと言&ブートニアを渡す
承認宣言一閉式の辞	17:20	1	司会者	司会者がゲストに結婚の承認を問ひかける一閉手で承認
(新郎新婦退場なし)			司会者	引継ぎ披露宴の旨アウンスあり
鐘開き	17:21	3	新郎新婦	紅白の木箱で鐘の音を聞く
プチギフトサービス	17:24	5	新郎新婦	新郎新婦がプチギフトを各卓ゲストに手渡し
ケーキカット	17:29	3	新郎新婦	ケーキ入刀→ファーストバイト(食べさせ合い)
ブーケバズ	17:32	3	8名	受付のくじ引きで当たりの参列者が参加する
新婦手紙朗読	17:35	2	新婦	両家両親と向かい合わせ一巻の手紙朗読
花束贈呈	17:37	3	新郎新婦+両親4名	脱着台にて / ストレート (自身の両親に) 渡し
お披露宴 一退場	17:40	2	新郎新婦+両親4名	新郎新婦、両親合計6名退場
スタッフ紹介	17:42	5	学生スタッフ全員	スタッフ全員ひとりずつ脱着台に登場 一ひと言ずつ挨拶
スタッフ代表挨拶	17:47	3	学生スタッフ1	参列者へお礼の言葉
模擬結婚式終了	17:50		学生スタッフ退場	一参列者は随時退場
(集合写真)				学生スタッフ&モデル全員で写真撮影



図5 模擬挙式の開催場所

がメインとなった。モデル、プランナーとも模擬結婚式内では最も存在感のあるポジションであるため、立ち居振る舞いや所作のシミュレーションが必須である。会場内で何度も動きを確認することにより、動きを身体で覚えることの重要性和「見られる（視線を集める）」ポジションとしての自覚を体感した。（新郎・新婦担当；新婦・新婦モデル、プランナー担当；学生スタッフ6・7）

事前準備、当日ともポイントとなる司会、音響（BGM）は、作業工数に於いて最も多く、全体像を描くうえでもキーマンである。両者とも、衣裳スタイリストやフローリストと同様に、プロの司会者や音響オペレーターからアドバイスを受けた。司会は、本番の模擬結婚式内で、ヴィジュアルでメインとなるモデルやプランナーよりも存在感が求められるポジションである。また、婚礼では縁起を担ぎ「忌言葉」をタブーとするなどの制約や決まり事も多々存在する。司会者は綿密な台本を作成し、台本完成後はそれぞれのシーンの見せ方や言葉の抑揚を視野に入れたトレーニングを行った。音響（BGM）は、新郎新婦の嗜好とプロのアドバイスを踏まえたBGM制作に没頭し、完成後は楽曲のタイミングや音源のボリューム調整など、細部に渡るオペレーション練習を積み重ねた。（司会担当；学生スタッフ1、音響担当；学生スタッフ2）

⑤第5段階「トータルコーディネート・リハーサル」

第4段階「各ポジションのプランニング」では、具体的な作業が始まると各自がそれぞれの役割に没頭し、他のセクションの情報が入らないまま期日を迎え、模擬結婚式まで1ヶ月を切ったタイミングで

はあったが、それぞれがほぼ完成したアイテムを持ち寄りひとつにまとめる作業として全体リハーサルの日を迎えた。

模擬結婚式の進行内容だけでなく、会場装飾に関しても当日と同様の設営を行った。本番同様の模擬結婚式会場を目の前に、当初学生は皆、意気揚々と、ある種既に達成感を得た状態となったが、それぞれのアイテムの完成度を検証していくにつれ、更にレベルアップするためのディテール修正に取りかかった。具体的には「全体像として見た時にそれぞれの調和が取れているか」、「他のアイテムと絡むことによる細かな修正点はどこか」、「更にベストな完成形を作り出すために変更する点はどこか」、これらの視点に沿っての微調整を繰り返し、本番の模擬結婚式のスタイルを構築させた。

IV 反省点と今後の課題

模擬結婚式のプランニングと施行により、学生が得たもの、学んだことは数多く、学内の授業の中だけでは体験しきれない貴重な経験であったと考えられる。婚礼に関する知識を深めたことはもとより、物事を企画立案しそれを具現化するプロセスや、個々のアイテムを纏めてひとつに作り上げるコーディネートにとって重要なポイントや、更に、「プロデュース力とはまさに人間力」という言葉の通り、商品アイテムの羅列では単なる「陳列」でしかなく、マンパワーがそれらに命を吹き込む役割を成しているという点を、実体験の中から学べる絶好の機会であったのではないかと考



図6 会場装飾

えられる。しかし、今後更にレベルアップするための反省点として以下の点が挙げられる。

まず1点目は、準備期間の問題である。3ヶ月という期間から逆算すると、具体的な準備のスタートの時期となるために、企画・立案の段階が若干タイトであったことは否めない。今回の模擬結婚式を例にとると、第1段階「ターゲット設定」、第2段階「コンセプト、並びにイメージ・カラーの決定」に関しては、考え方のレクチャーを受けた後、比較的即座に作業に取り掛かり、学生主導で決定することが出来たが、第3段階「役割分担とスケジュールリング」並びに、第4段階「各ポジションのプランニング」の前半までは授業内の講義や、口頭のレクチャーだけでは想像がつかないように見受けられ、「形のない状態からの第1歩」を学生自らが切り開くことの難しさを感じた。ただ、実際に結婚式に参加する年齢には少し早い学生達にとって、机上の知識だけではイメージを創造出来ない、ことも充分理解出来る。よって、解決方法となる課題としては、約6ヶ月に準備期間を延長することによって、経験値の少ない学生達が婚礼そのものを現実に体験出来る何かしらの時間や、プランを生み出すための「引き出し」を多数持つための取り組みが必要と思われる。専門誌やインターネットを使用した情報収集にも時間を要すべきである。そのための準備期間として3ヶ月を費やす価値はあるのではないかと考える。学生自らが全くブランクの状態から発案した企画であれば、仮に実際の婚礼ではあまり見受けられないプランや進行内容であったとしても、学生が行う模擬結婚式本来の意味を考察すると、間違いなく価値のあるものになるのではないかと考えられる。

2点目は、チームを構成する学生のスケジュール管理の重要性である。同じ授業で顔を合わせるメンバーではあるが、個々の環境や事情により、全員参加でミーティングを行うことが難しかったことは否めない。共通認識を持ち、同じ目的に向かうためのコミュニケーションの観点からも、定期的にミーティングを行い、自身の状況を他のメンバーに伝えること、また他のメンバーの状況を把握することが更に重要だったのではないかと考えられる。

V まとめ

ブライダルビジネスの現場では、顧客のライフスタイルの個性化・多様化が急速に進んでおり、結婚に対する意識の変化を背景にして、形式にとらわれないオリジナリティのある結婚式への要望が高まっている。このため、ブライダル産業で活躍できる人材育成を目指した実践教育の実現が必要となっている。そこで、ブライダルビジネスの現場で即戦力として活躍できる実践力を育成するため、ブライダル分野の教育内容の総仕上げとして、学生自らがプロデュースした「模擬結婚式」を実際に行ってみることが必要であると考え、学生企画による「和装模擬結婚式」に取り組み、この取り組みについての当日までの流れと今後の課題を報告した。

結婚式に意識の高い学生達自らが発案した新企画であれば、仮に、今現在では実際の婚礼ではあまり見受けられないプランや進行内容であったとしても、すぐにも顧客になるような年代の学生達自身の思い入れの企画であるので、今後、ブライダルビジネス現場で要望される新企画となる可能性もあり、「模擬結婚式」の開催は、学生達の即戦力や実践力を付けるための実践教育として、大変価値のある取り組みではないかと考える。

参考文献

- 1) 望月広愛；ブライダルビジネス戦略，同友館，p2, p13 (1997)
- 2) 一岡里栄，知念葉子；ブライダルマーケットの現状報告と大学教育における人材育成に関する課題，京都光華女子大学短期大学部紀要，p189 - p200 (2009)
- 3) 知念葉子，一岡里栄；洋装の婚礼衣裳におけるスタイリング・イメージの分類とウエディング・アイテムの印象評価，京都光華女子大学短期大学部紀要，p175 - p187 (2009)
- 4) 知念葉子，一岡里栄；婚礼ビジネスにおける新規接客の重要性と業務内容－和装結婚式における顧客特性について－京都光華女子大学短期大学部紀要，p37 - p55 (2010)
- 5) 石塚勉；ブライダル総論，財団法人日本ホテル教育センター，p91 - p104 (2001)